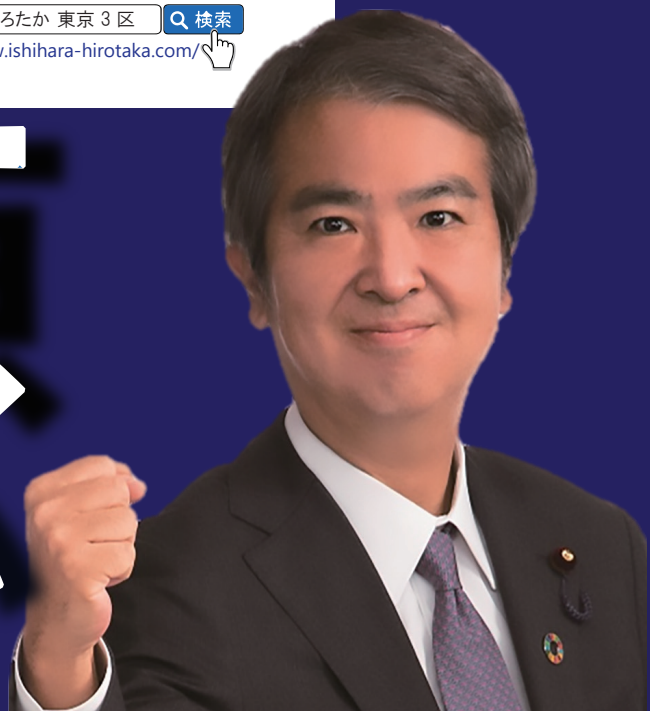




石原 ひろたか

衆議院議員



【私にとっての「石原慎太郎」】

今回の自由民主では、去る2月1日に逝去した私の父、石原慎太郎（元都知事）について、父と一緒に実現した政策を振り返ります。また、父の意志を引き継ぎ、これから石原ひろたかが成すべきことと、併せて令和4年度予算の概要を特集します。

父、石原慎太郎は令和4年2月1日、享年89歳で逝去しました。葬儀は2月4日と5日に家族葬で行いました。葬儀の際、姪から「素晴らしい人生だった」と父が言っていたと聞きました。息子には常に強い男であろうとしていた父の本音だったのかもしれない。戒名は「海陽院文政慎栄居士」。生前、戒名に「青嵐報国」と入れて欲しいと言っていたので、この言葉は墓石に刻むことにしました。「青嵐」という言葉に父の強い思いが表れていると思います。

父は私にとって、高い目標であり、人生の指針を示してくれる人でした。私が学生時代に、常に迷いなく我が道を行く父に「何故そんな風に生きていけるのか」と尋ねました。その際に、「俺だって今この一瞬を一生懸命生きているんだ、お前も頑張れよ」と言ってくれたことを忘れることが出来ません。今後も、父を目指して精進して参ります。本当に多くの方々より、温かい励ましのメッセージをいただいたこと、この場をお借りして、改めて心より感謝申し上げます。

父、石原慎太郎と実現したことと、意志を引き継ぎ、私が成すべきこと

◆領土・領海を守り、国民の生命と財産を守り抜く

父は自民党の衆議院議員時代、一貫して外交・防衛を専門としていました。米国の ICBM 基地を視察したことのある数少ない国会議員でもありました。2012 年 4 月、父は、東京都による尖閣諸島の購入を表明しました。結果としては、民主党政権の野田首相が国有化しましたが、尖閣諸島への危機感は亡くなるまで持っていたと思います。2021 年 4 月、父とともに沖縄県石垣市の中山市長と面談しました。中山市長から「中国海警局の艦船により、石垣島の漁船が尖閣諸島の近海で全く漁業が出来ない厳しい状況」と伺い、父は中山市長に、「夏には石垣島にある大型客船をチャーターして、尖閣諸島に上陸しよう」などと話していました。ロシアによるウクライナ侵略が進む中、東アジアでは 2027 年までに中国が台湾に侵攻するとの推測がなされています。力による侵略を許すことは出来ません。ロシアのウクライナへの侵略は、“明日の日本の危機”です。中国が台湾に侵攻した場合、尖閣諸島も侵略される可能性が高いからです。今から、中距離ミサイルの配備等、更なる防衛力を確保し、領土・領海を守らなければなりません。与党の一員として敵基地攻撃能力の確保を進めて参ります。

父の意志を引き継ぎ、成すべきことを成す！

(注1) 3年度予算11、4年度予算との比較対照のため、縮減率を定めて、『(参考)ODAの「3年度予算(当初)」欄の数値に、令和4年度にODAの対象外となる経費(30億円)の影響を除いて、
(注2) 数値は、それぞれ四捨五入にしているため、縮減率において合計と一致しないものがある。